



お風呂に入ったとき、プールで遊んでいるとき、自分の体が軽くなった感じがしませんか？
それは「^{ふりよく}浮力」という見えない力が、体にはたらいっているからです。
鉄でできた船が沈まないのもこの浮力のおかげ。今回は浮力について調べてみましょう！



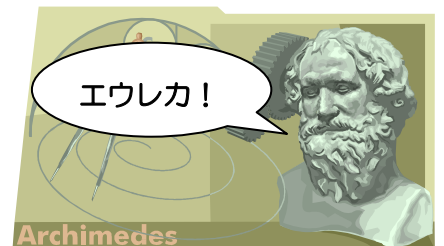
エウレカ！エウレカ！

浮力の発見！

今から約2300年前、古代ギリシャの学者であったアルキメデスは、町の共同風呂に入っているときに、浮力の原理を発見します。アルキメデスは、湯船に入ってあふれ出たお湯を見て、水の中に入れた物体は、おしのけた水と同じ分だけおし上げようとする力がはたらくということに気づきます。このおし上げようとする力が浮力です。アルキメデスは、この発見を大喜びし「エウレカ（わかったぞ）！」とさけびながら、すっ裸^{ばだか}で家まで帰ったというエピソードを残しています。



このアルキメデスの発見は、「アルキメデスの原理」とよばれ、現在でも船の浮力の計算などに使われ、役立てられています。



世界の科学者たちがどのようにひらめいて、どのように実験してきたのか。歴史に名を残す科学者たちのものがたりです。
『天才たちの発明・実験のおはなし』 監修/米村でんじろう
出版/PHP研究所 2012年 請求記号402